

富山地方鉄道鉄道線に関する アンケート結果（速報版）

機械読取により早期集計を行っているため、最終報告までに若干の変動が生じることがあります。

実施期間：令和8年6月8日～6月30日 / 実施方法：オンライン及び紙媒体

令和8年7月 滑川市

アンケートの回答状況

市内人口構成に応じ、無作為抽出により5,000人にアンケートを送付しました。

回答総数 ※

2,195件

(回収率: 43.9%)

女性

54.4%

男性

44.7%

自家用車保有率

89.2%

運転免許保有率

86.6%

※全設問を回答しない場合があるため、各設問の回答数とは異なる。
なお、各設問においては、複数選択により 割合の計が100%を超えるものがある。

年齢層別

10歳代	127人 (5.8%)
20歳代	120人 (5.5%)
30歳代	206人 (9.4%)
40歳代	279人 (12.8%)
50歳代	355人 (16.3%)
60歳代	381人 (17.5%)
70歳代	463人 (21.2%)
80歳以上	252人 (11.5%)

60歳以上が全体の50.2%

若年層（10～30歳代）は20.7%

職業別

会社員	744人 (34.7%)	その他	556人 (26.0%)
主婦・主夫	438人 (20.5%)	公務員・教職員	101人 (4.7%)
自営業	81人 (3.8%)	高校生	68人 (3.2%)
経営者・役員	45人 (2.1%)	中学生	44人 (2.0%)
農林漁業	32人 (1.5%)	大学生・大学院生 専門学校生・短大生	32人 (1.5%)

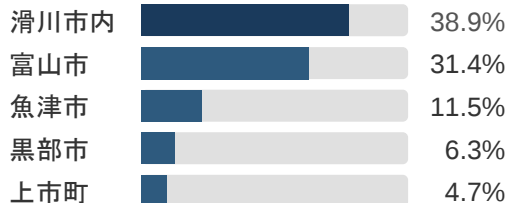
「その他」の主な内訳

パート・アルバイト（103人）、無職・年金生活者（128人）、団体職員（9人）など

1 移動に関する実態

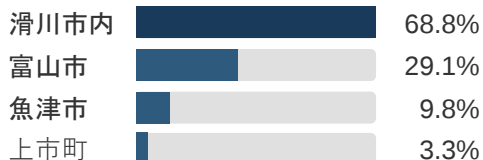
<通勤・通学>

通勤・通学先



<通勤・通学以外の外出>

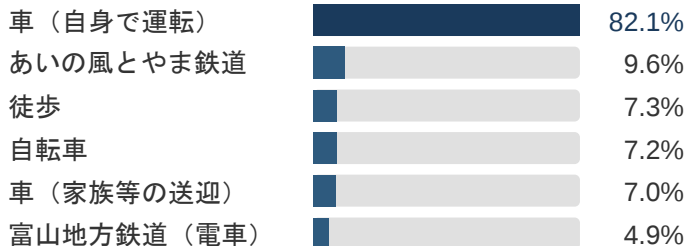
通勤・通学以外の外出先



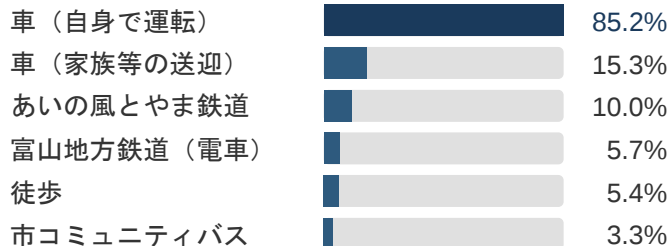
主な外出目的（複数回答）



通勤・通学の交通手段（複数回答）



買物等の交通手段（複数回答）



2 富山地方鉄道本線（電車）の利用状況

週1日以上の定期的利用者

3.2%

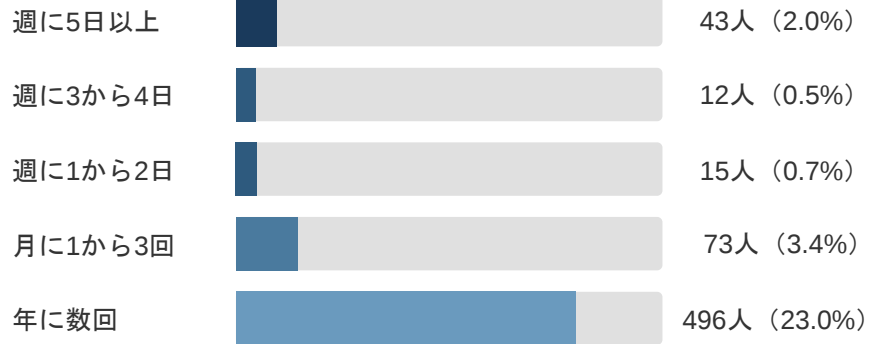
70人

利用していない

70.4%

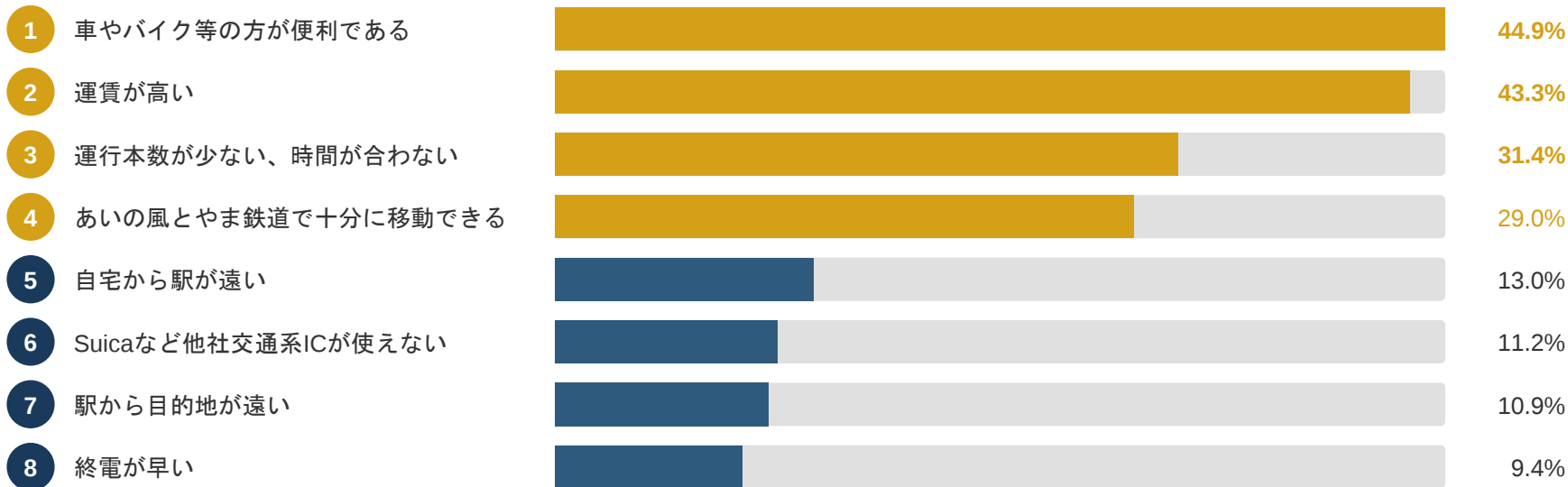
1,521人

利用頻度の内訳



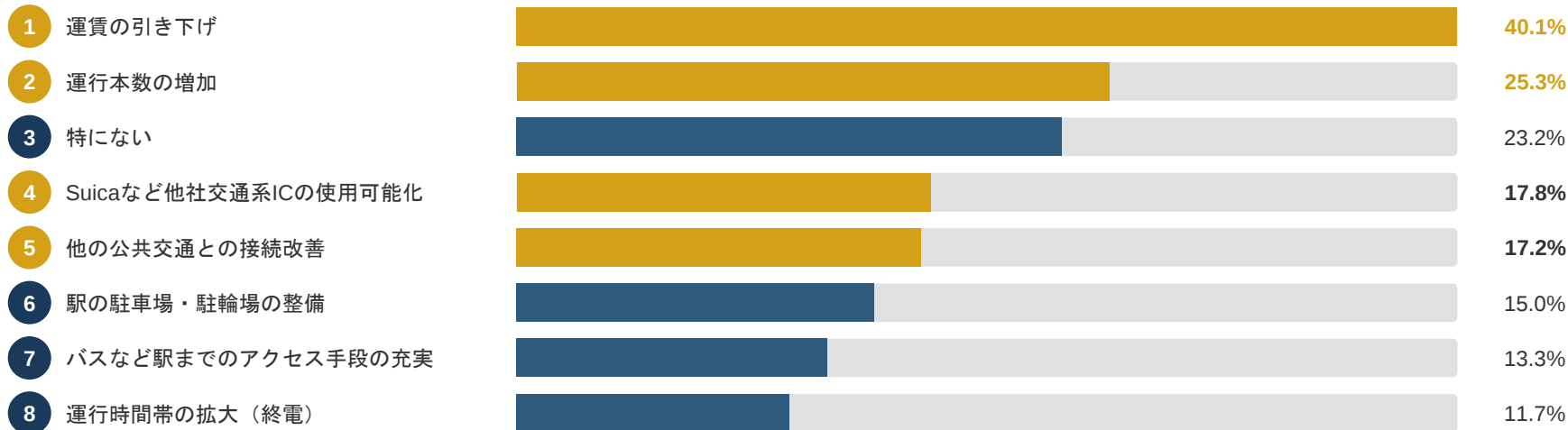
地鉄を利用しない理由・困っていること（複数回答）

上位項目（複数回答）



利用促進のために実施したらよいと思う取組（複数回答）

改善要望（複数回答）



改善等による利用の意向

これらの取組により利用が増えると思う

42.2%

これらの取組後も利用は増えないと思う

57.8%

3 地鉄本線（滑川駅以東）のあり方について

必要だと思う
(とても必要・ある程度必要だと思う)

68.2%

1,390人

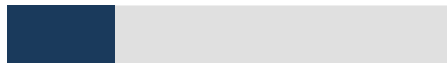
必要でないと思う
(必要でない・あまり必要とは思わない)

31.8%

649人

必要性の内訳

とても必要



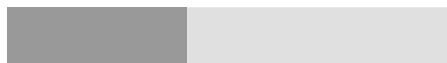
271人 (13.3%)

ある程度必要だと思う



1,119人 (54.9%)

あまり必要とは思わない



442人 (21.7%)

必要でない



207人 (10.1%)

必要性についての回答理由

とても必要・ある程度必要と回答した理由（1,390人）

市域をこえた通学（高校生など）に利用		72.5%
自身は利用しないが沿線住民は困ると思う		50.2%
将来の自身や子どもたちが利用する可能性		41.5%
観光などの広域的な移動に利用		24.0%
鉄道がもたらす多面的な効果が失われる		15.6%
他の交通手段で代替できないため		15.3%
自身や家族が利用しており不可欠		8.1%

その他の意見（自由記述）

- 通勤通学時間帯のあいの風鉄道、自動車利用者はすでに飽和状態
- 並行区間と他の区間では考え方が異なる、新魚津駅以东は観光のため残すべき
- 鉄道としては必要、あいの風への乗り入れや経営移管も選択肢として検討を
- 将来の高齢化社会では公共交通が必要になると思う
- 廃線後の代替交通手段や滑川駅までの交通便の向上を検討すべき
- 子どもが電車が好きで喜ぶから

必要でない・あまり必要でないと回答した理由（649人）

あいの風とやま鉄道が並走し役割が重複		38.2%
行政負担を生じてまで必要とは思わない		29.9%
人口減少の中、将来的な廃線はやむを得ない		26.8%
利用者が少ない現状があるから		25.1%
これまで利用せず今後も利用するつもりなし		24.7%
なくなっても他の交通手段で代替可能		21.1%
沿線地域に住んでおらず生活が成り立つ		12.6%

その他の意見（自由記述）

- 交通手段は毎年変化（進歩）しており、時代に合った検討が必要
- 宇奈月方面はあいの風から乗り換えた方が観光客も効率的
- 並走路線に苦心され許可を得た区間のはず、事業者の判断に委ねるべき
- 需要と供給が成り立たない、公営化しても、賛同しない住民の税金を利用するのは見当違い
- 事業者が実施した改善策がわからない、将来更なる支援が求められる
- 高校の再編による高校生の利用に応じて考えるべき

行政負担（滑川市の負担）に対する意見

負担すべき（計）

49.1%

996人

負担すべきでない（計）

50.9%

1,033人

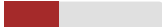
負担賛成派の内訳

最大限負担すべき  4.9%

ある程度負担すべき  44.2%

負担反対派の内訳

あまり負担すべきでない  33.5%

負担すべきでない  17.4%

行政負担についての回答理由

負担すべきと回答した理由（996人）

公共的なサービスとして市民全体で支える必要		65.3%
事業者で維持できなければ行政で負担してほしい		24.0%
観光面や鉄道の多面的効果で便益を受けている		20.7%
将来の子どもたちの負担につながる		10.6%
長期的な視点での十分な検討がされていない		4.8%

負担すべきでないと回答した理由（1,033人）

当面（今後10年間）の維持・延命では意味がない		28.7%
市の負担に相応する便益が思いあたらない		27.9%
他の市民サービスの充実に使ってほしい		23.5%
将来の子どもたちの負担につながる		21.8%
鉄道事業者の範囲の問題だと思う		16.4%
長期的な視点での十分な検討がされていない		13.9%

その他の意見（自由記述）

- 一度廃止すると後戻りできないので議論を重ねるべき
- 負担はある程度容認できるが、鉄道事業者による魅力向上や経営努力が先
- 単なる赤字補填ではなく将来への投資として使うべき
- 市人口減・高齢化等を充分考えて負担を考えてほしいと思う
- 鉄道は全体をみて考えざるを得ないため、国の補助、県の役割は大きい
- 利用が伸びるような沿線環境がない中、行政は電車通勤を求めるなど強い手段が必要か

その他の意見（自由記述）

- あいの風とやま鉄道との並走区間に行政負担は必要ない
- 新魚津以東の必要性もわかるが、そのために滑川市が負担するのが良いことは思えない
- 県が負担する、県東部のため県民税を使うことには賛成
- 鉄道事業者の経営努力が見えない、民間ができないものを行政がうまくできるとは思わない
- 滑川市では観光面や多面的効果ではあまり便益を受けているようにみえない
- バスなど市内の移動手段の拡充に費用を充ててほしい

アンケート結果のまとめ

1. 自家用車利用率

自動車運転免許保有率	86.6%
車両保有率	89.2%
通勤・通学での車利用	82.1%
買い物等での車利用	85.2%

2. 地鉄本線（電車）の利用率

定期的利用者（週1日以上）	3.2%
月1日以上利用者	26.4%
非利用者	70.4%

3. 地鉄を利用しない主な理由

車の方が便利	44.9%
運賃が高い	43.3%
本数が少ない・時間が合わない	31.4%
あいの風鉄道で移動できる	29.0%

4. 利用促進施策への期待

改善等により利用は増える	42.2%
改善等後も増えないと思う	57.8%
（期待する取組）	
・ 運賃の引き下げ	
・ 運行本数の増加	

5. 滑川駅以東の必要性

必要だと思う	68.2%
（理由）高校生通学のために必要、沿線住民が困るから、将来利用する可能性がある	
必要でないと思う	31.8%
（理由）あいの風との重複、行政負担をしてまでは不要、利用者減・人口減により	

6. 市の負担への意見

負担すべきでない	50.9%
（理由）当面の維持では意味なし、市の便益が思いつかない、他の市民サービス充実	
負担すべき	49.1%
（理由）公共的なサービスのため、事業者で維持できなければ行政で負担	